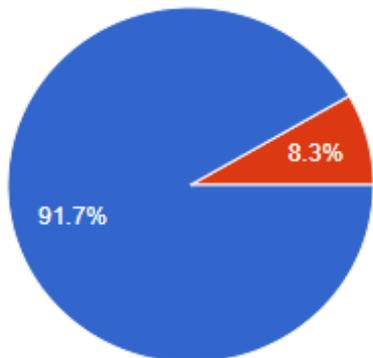


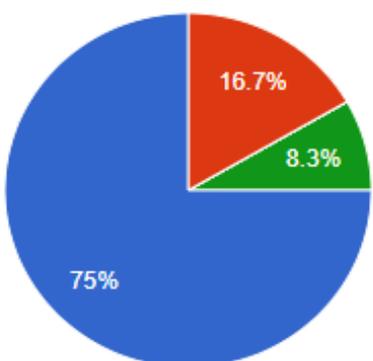
# 令和7年度 阿南市立椿小学校 保護者アンケート 結果及び考察

学校は、保護者や地域の思い・願いを大切にしている。

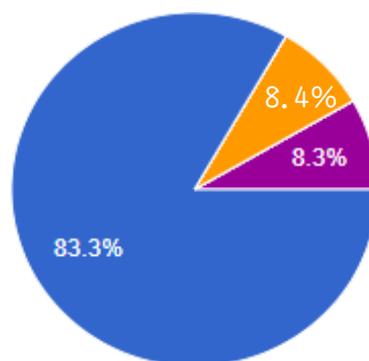


- そう思う
- やや思う
- あまり思わない
- 思わない
- わからない

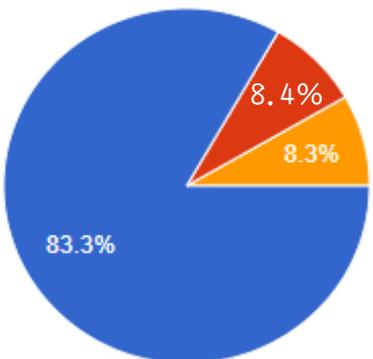
学校はいじめのない学校（学級）づくりをしている。



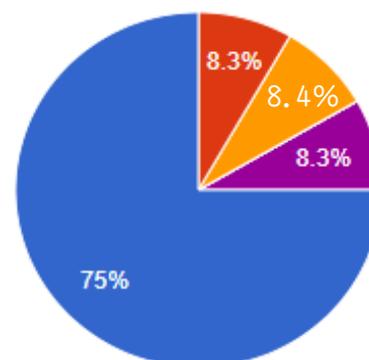
学校は、児童の健康や安全対策を適切に行っている。



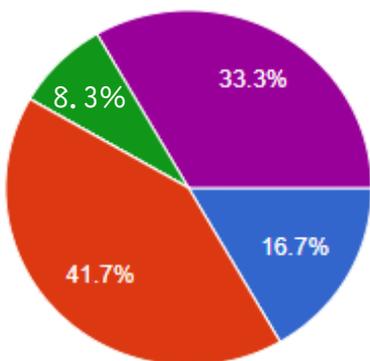
学校は防災教育を推進している。



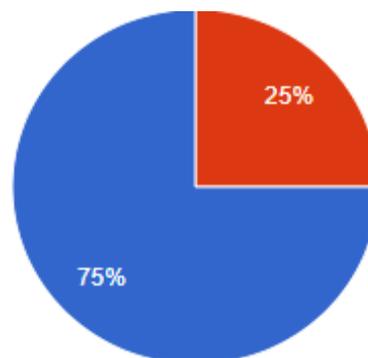
学校は「わかる授業」づくりに努めている。



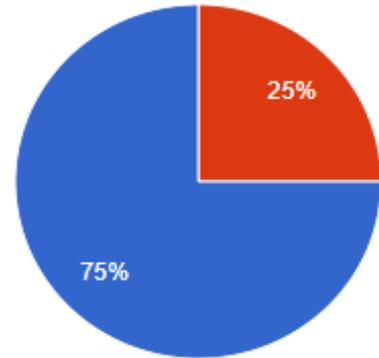
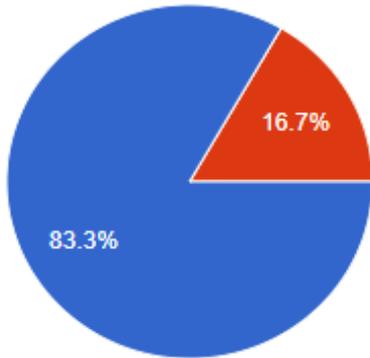
ICTを活用した教育によって授業がわかりやすくなっている。



学校（学級）だより、HPなどを通して、学校の取組や児童の様子がよく伝わっている。

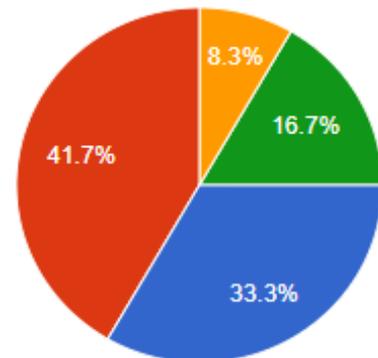
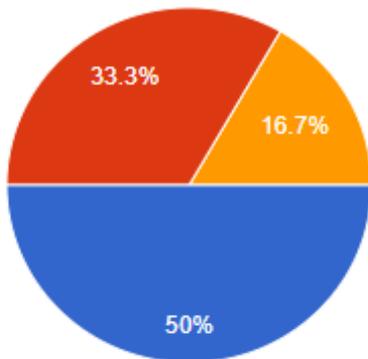


学校行事は児童にとって有意義なものになっている。 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。



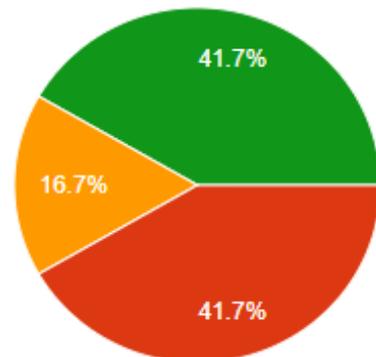
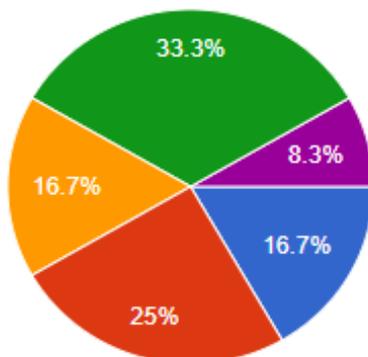
子どもは、よくあいさつができています。

子どもは、家庭学習に集中して取り組んでいる。



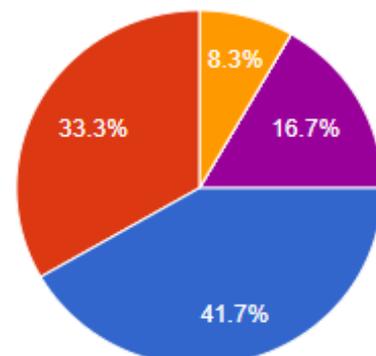
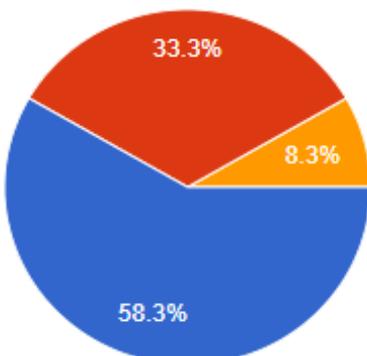
子どもは、よく読書をしている。

子どもは家庭で、学校のタブレットをよく活用している。

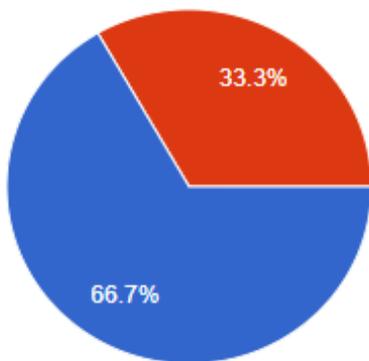


子どもは家庭で学校の話をよくしている。

学校は、近隣の小学校・中学校（椿泊小・福井小・橘小・阿南二中）との連携に積極的に取り組んでいる。



子どもは自分の住んでいるまちが好きだ。



その他、お気づきの点がございましたら、ご記入ください。

・国（文科省）が推進するGIGAスクール構想（ICT活用教育）については、現時点では十分に教育効果が発揮されているとは言い難いと感じております。デバイスを「使うこと」が目的化する教育に依存せず、子供の思考力を深める対面での学びや体験的学習を重視した教育との適切なバランスに期待しております。

・宿題に代表される受動的な学習（与えられる学習）は、かえって家庭学習の定着や学習意欲の向上を妨げている側面があると感じております。子どもが自ら課題を設定し、主体的・自律的・探求的に学ぶ能動的学習へと転換するためには、一律に宿題を課すのではなく、内容や方法を子ども自身が選択できる形や、必ずしも強制しない運用もありではないかなと考えおります。本来、学習・勉強はゲームと同様に「楽しいもの」であり、内発的動機づけによってこそ継続すると考えています。その点、椿小学校は都市部の学校とは異なり、子ども主体で探究心を促す教育が実践されており、オルタナティブ教育に近い価値観を持つ学校であると感じております。

#### 【考察】

保護者アンケートの結果を前年度と比較すると、本校の教育活動全般に対する信頼感は引き続き高い水準を保っている。前年度は、「学校は保護者や地域の思い・願いを大切にしている」「いじめのない学校づくりをしている」の項目において、肯定的回答がいずれも100%であり、今年度においても同様に高い評価が得られていることから、学校運営の姿勢が継続して支持されていると考えられる。

また、「学校行事は児童にとって有意義である」は前年度100%の肯定的評価であり、今年度も行事に対する満足度の高さが維持されている。「学校へ行くのを楽しみにしている」についても、前年度は肯定的回答が80%であり、今年度の自由記述からも、児童が前向きに学校生活を送っている様子が家庭において感じ取られていることがうかがえる。

一方で、ICTを活用した授業については、前年度は肯定的回答が40%にとどまり、意見が分かれる結果となっていた。今年度のアンケートにおいても、ICT活用の在り方や教育効果について多様な意見が寄せられており、今後もICTの活用が目的化することなく、対面での学びや体験的な学習、子ども主体の学びとの適切なバランスを図っていくことが求められる。

家庭学習や読書に関する項目についても、前年度は肯定的回答が低めの傾向が見られており、今年度の自由記述からは、子どもの主体性や意欲を高める学びへの期待が示されている。今後は、少人数・複式学級の特性を生かしながら、家庭と連携し、子どもが自ら学びに向かう力を育てる取組を一層充実させていきたい。